

大橋あきお

大阪府議会議員

通信

令和3年
新年号

発行: 大橋章夫府政事務所
〒573-0027 枚方市大垣内町2-17-5 ダイショウビル301
TEL: 072-861-0117 / FAX: 072-861-0116

<https://ohashi-a.com/>



■本会議で一般質問する大橋府議

大阪府議会9月定例会一般質問より



新型コロナウイルスのたび重なる感染拡大から、府民の皆様の命を守り、生活を守るために、公明党大阪府議会議員団は、吉村知事をはじめ大阪府各部局とさまざまに議論をしております。

大橋あきおは大阪府議会9月定例会本会議において、コロナ禍での文化芸術活動への支援をはじめ、府の諸問題、地元枚方市のインフラ整備などについて質問しました。

→ コロナ禍における文化芸術活動への支援



新型コロナウイルスの感染拡大により、我が国の経済活動は大きな打撃を受けており、文化芸術の分野も例外ではありません。緊急事態宣言下では、劇場やホールなど文化施設が休館を余儀なくされ、コンサートや公演の中止、延期が相次ぎました。現在でも満員の観客で席が埋まる光景を目にすることはありません。しかし、このようなコロナ禍の中でこそ、大阪の多彩で豊かな文化芸術の持つ力を継続していくことが必要です。

大橋あきおは、上方落語協会や日本バレエ協会、日本センチュリー交響楽団などの団体から窮状を聞き、大阪府の支援、国への要望について質問しました。

大阪府は、無観客ライブ配信事業への支援、また、4大オーケストラのコンサートや大阪で活躍する約280名の落語家が出演する高座を府内各所で開催するなどの大阪文化芸術創出事業に取り組んでいる。これからも大阪における文化芸術活動を支援しながら、多くの府民への鑑賞機会の提供に努めると答えました。

→ 枚方市駅周辺再整備

枚方市駅周辺の再整備は、平成16年から10年以上議論の進展が見られない状況でした。その後、大阪府、枚方市、地元関係者が協力し、枚方警察署前の北河内府民センターが駅前に移転し、跡地に市役所が国とともに合同庁舎を整備するという、まちづくりの根幹となる整備方針が公表されました。

大橋あきおは、これまでも調整に携わってきた一人として、大阪府に対し、今後の取り組みについて質問しました。

大阪府は、北河内府民センターの移転がまちづくり全体の契機となるよう進めていくとともに、調整に協力していくと答えました。



→ 乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)

乳幼児揺さぶられ症候群、揺さぶられっこ症候群とも言われますが、乳幼児の頭部への暴行は、直接死に至らしめたり、重大な後遺障害を引き起こす深刻な虐待です。乳幼児揺さぶられ症候群SBSは、厚生労働省の「子ども虐待対応の手引き」において、子どもの頭部が暴力的に揺さぶられることによって生じる頭部外傷と定義されています。子どもの虐待が疑われる状況で、迅速に対応することは当然であり、大阪府でも、子どもの安全を第一に躊躇なく保護しています。

しかし、一方でこのSBSが疑われて、保護者が罪に問われた事件で不起訴や無罪判決が相次いでいます。有罪率が99%以上と言われる日本の刑事裁判で、多くの無罪判決が同じような事件で続いているのは異例です。その多くが大阪で起きています。ひとつの裁判で4年～5年の時間を要します。その間、親子は離れ離れになります。無罪になったからよかったではすまない現実があります。

大橋あきおは、今年度、厚労省が行うSBSの実態調査に対する大阪府の協力に対し、吉村知事に質問しました。

知事は、罪のない人が拘束されたり、裁判にかけられる等の不利益を受ける、いわゆる冤罪はあってはならないものであり、親子に与える影響は非常に大きなものと認識していると、厚労省の調査に大阪府の知見や取組状況等を提供するなど、積極的に協力していくと答えました。